

内閣総理大臣杯争奪  
第39回日本車椅子バスケットボール選手権大会  
個人トータル表

2010年5月4日 10時00分開始

1回戦

東京体育館 B - 2

長野WBC  
(甲 信越)

32

4	1クォーター	18
6	2クォーター	11
16	3クォーター	20
6	4クォーター	14

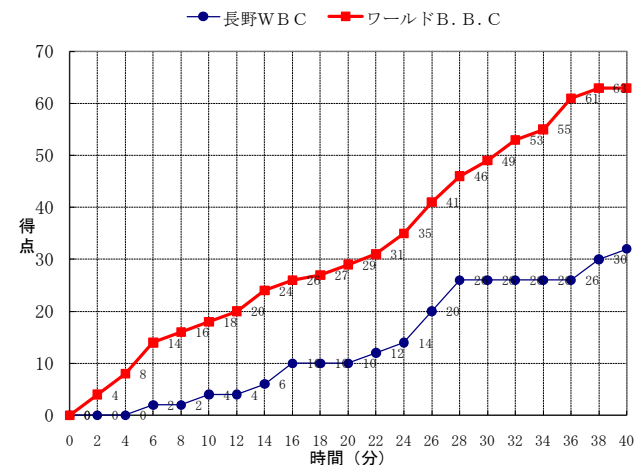
63

◎  
ワールドB.B.C  
(東海北陸)

番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則	番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則
6	熊谷 悟 (3.0)	-	-	-	-	-	-	-	4	林 秀則 (1.0)	0	0	0	0	-	-	3
*7	矢口 敦也 (1.5)	0	0	0	0	-	-	1	5	加藤 和徳 (3.0)	6	0	3	0	-	-	1
8	太田 文武 (2.0)	0	0	0	0	-	-	1	*6	神谷 泰範 (2.0)	4	0	2	0	-	-	2
10	高原 健二 (2.0)	-	-	-	-	-	-	-	7	竹内 厚志 (3.0)	0	0	0	0	-	-	1
*11	中村 慶佑 (4.5)	8	0	3	2	-	-	1	8	長谷川 康之 (2.0)	9	0	4	1	-	-	0
*12	寺尾 剛 (2.0)	2	0	1	0	-	-	4	*9	竹中 久雄 (2.0)	0	0	0	0	-	-	0
*13	藤沢 潔 (2.0)	10	0	4	2	-	-	4	10	加藤 直生 (1.5)	0	0	0	0	-	-	0
*14	奥原 明男 (2.0)	12	0	6	0	-	-	1	*11	早稲田 正浩 (2.0)	10	0	5	0	-	-	1
15	向山 智和 (2.0)	-	-	-	-	-	-	-	*12	白丸 文明 (3.5)	13	0	6	1	-	-	4
16	宮沢 武利 (2.5)	-	-	-	-	-	-	-	13	大橋 昭文 (2.0)	0	0	0	0	-	-	0
									14	杉浦 寿信 (1.0)	4	0	2	0	-	-	0
									*15	大島 朋彦 (4.0)	17	0	6	5	-	-	0
									16	辰巳 晃一 (3.5)	-	-	-	-	-	-	-
									18	安藤 洋幸 (1.0)	0	0	0	0	-	-	0
コーチ	奥原 明男								コーチ	杉浦 寿信							
Aコーチ	東 英恵								Aコーチ	小川 智樹							
マネージャー	東 薫								マネージャー	西俣 奈月							
マネージャー	益田 涼子								マネージャー	寺島 悦子							
マネージャー	太田 伸江								マネージャー	森 祐美子							
合計		32	0	14	4	0	0	12	合計		63	0	28	7	0	0	12

主審： 菅野 英輔  
副審： 新井 優二  
副審： 吉澤 京子

得点経過



〔戦評〕

1Q:長野WBCが#7, #10, #11, #12, #13で、対してワールドBBCは#6, #9, #11, #12, #15のメンバーで試合を開始する。試合の流れは序盤から#6, #15の高さを生かしたワールドのディフェンスに長野はなかなか自分の試合をさせてもらえてないでいた。長野#11, #14がシュートを打つもリバウンドをワールドに支配され、なかなか得点が出来ない。その間にワールドは#11のランニングシュートや#15の高さを生かしたシュートで得点を重ねていく。長野#14が得点するも、ワールド有利は動かず、4対18で終了する。

2Q:ワールドは#4を#11と交代させる。開始からワールドのディフェンスが良くなり、長野の#14のシュートや長野#7から#13のロングパスも届かなくなる。しかし長野は#11のシュートや#13のランニングシュートが決まりだし、試合の流れを掴みそうになる。しかし、その流れを断ち切るかのようにワールドがタイムを取る。このタイムアウトで試合の流れを決めたかのように、長野のシュートが決まらなくなり、次の得点を取るまでにしばらくかかるようになる。タイムアウトにより流れを掴んだワールドは、ワールド#4, #5, #6をさげ、#8, #10, #11を投入する。その効果はすぐに表れ、ワールド#8が残り2秒でシュートを決め、10対29で終了する。

3Q:先制点を取り、勢いをつけたい長野は#14のシュートが決まりスタートをする。再び長野#14のシュートが決まるが、ワールド#15の高さのあるディフェンスとシュート、ワールド#12のランニングシュートが決まり得点を重ねていき長野との点差を開けていく。長野#11, #12, #13が得点をするが、差が縮まることなく、26対49で終了する。

4Q:選手の交代を行うワールドに対して、疲れが見えたのか長野のシュートが入らなくなる。停滞する長野を置いていくかのように、ワールド#15のシュートが決まり、更に点差を開けていく。長野も#14のシュートと#13のランニングシュートを決めるが、最後の抵抗となり、ワールドが序盤から試合の流れを掴んだまま長野